

特集 量的研究, 質的研究の 「危うさ」と混合研究法の 可能性

第6回日本混合研究法学会オープンフォーラム
「混合研究法で量的研究, 質的研究の
『危うさ』を乗り越えられるか」より

【量的研究の立場から】

計量的言語研究の現状と展望 — 検証型研究と探索型研究の界面

石川慎一郎／抱井尚子

10

【質的研究の立場から】

質的研究の危うさ — 私の経験から グレッグ美鈴／抱井尚子

18

【パネルディスカッション】

量的研究・質的研究の課題と展望, そして混合研究法の未来

石川慎一郎, グレッグ美鈴, 成田慶一, 抱井尚子

26

特別記事

【修士・博士論文の出版の促進に向けた
日本看護科学学会和文誌・英文誌の取り組み】

『日本看護科学会誌』の取り組み — 投稿の Tips を含めて

宮下光令, 河野あゆみ, 春名めぐみ

43

『Japan Journal of Nursing Science (JJNS)』の取り組み

堀内成子

53

特別記事

ナラティブ分析への誘い —— 看護研究における可能性

宮坂道夫

70

新連載 Ska vi FIKA? スウェーデンでの研究生活・1

スウェーデンに行くまで 加藤尚子

66

連載 集まる つながる 広がる 若手研究者のバトン・16

研究者としての自分を形づくった「奇跡」 吉永尚紀

1

書評

『ヘルス・エスノグラフィー —— 医療人類学の質的研究アプローチ』

フィールドで考え、人びとの理解と自己変成を生み出す研究

西村ユミ

40

『定本 M-GTA —— 実践の理論化をめざす質的研究方法論』

「なるほど!」という理解とともに M-GTA と質的研究を学ぶ

グレッグ美鈴

65

INFORMATION 36

今月の本 68

バックナンバー 83

次号予告・編集後記 84